

◆新技術定着試験

キリンサイの増殖試験

宮古農林水産振興センター 長嶺 巖・中田祐二

1. 目的

宮古島では、キリンサイのことを「ウル」と呼ぶ。キリンサイはカラゲーナンを多く含みゲル化することから、宮古島では古くからキリンサイを煮て寒天状に加工して「ウルス」の名称で空港売店やスーパー等で販売されている。

近年は、居酒屋の海鮮サラダにも利用され観光客にも人気が高まっていることから原料が不足している状況にあり、特産品かを目指すために原藻であるキリンサイの増殖を目的に養殖技術定着試験を実施する。

2. 方法

- ①実施機関：宮古農林水産振興センター
農林水産整備課漁港水産班
- ②実施時期：平成22年4月23日～
平成23年3月31日まで
- ③実施場所：狩俣湾
宮古島漁協特区276号
- ④協力機関：宮古島漁協狩俣漁業生産グループ
狩俣 吉宏 根間 靖
- ⑤指導協力：沖縄県指導漁業士 儀保 正司
- ⑥材料及び方法

母藻は天然に自生するササヅク10kgを採取して使用した。養殖手法は下記方法で実施した。

方法①ネトロンネット（10mm目合い）で布団カゴを5カゴ制作しカゴに母藻を入れて栄養体生殖試験を実施した。

方法②定置網に使用している30mm目合いの網で袋を制作し袋に母藻を入れて生育試験を行った。

方法③モズク養殖に使用した古網を再利用して束ねて、母藻を入れて生育試験を実施した。

方法④石にキリンサイをゴムバンドで結策し、海底に設置し値付けさせて増殖する方法で試験した。

3. 結果

方法①の布団カゴ方式では、カゴの内部で増殖し、カゴの下から芽出ししているが表面にはわずかしき芽出ししていない。

方法②の網袋方式は約2倍のスピードで増殖していることが確認できた。

方法③では、モズク古網にキリンサイが根付いて生育していることが確認できた。

方法④では、ゴムバンドで固定したキリンサイが石に根付いて成長していることが確認できた。

4方法でも照度が低いネットの裏側に根付いたり、カゴの裏側から生育したりと夏場の高水温よりも低照度での増殖が良好な結果になっていると思われる。

ネトロンネットと網袋から11月に株分けし石灰石に結策したキリンサイは、まだ検量していないので正確な増量は今後把握したい。

4. 考察

これまで、天然のキリンサイは夏場になると消失してしまうというのが定説であった。

宮古島市海業センターのタンクで陸上養殖試験を実施した結果でも3週間で溶けてしまったとの報告がある。今回の海面増殖試験では、4方法とも消滅せずに順調に生育しており、①のネトロンネット布団カゴ方式は超夏用に照度を低くして増殖させる手法としては効果があった。

③の網袋方式は垂下式に連結していくため増殖に向いているが今後袋のサイズ、目合いを検討する必要がある。

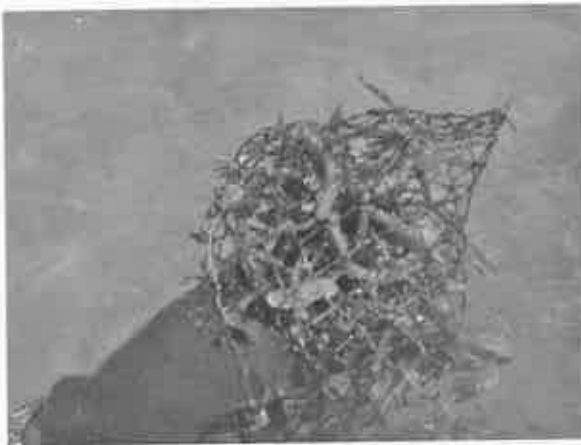
④の方法で実施したゴムバンドで石に結策してキリンサイを根付かせる手法は、台風で石が流出しない限り根っこを残して収穫すれば輪栽が可能と思われる。



狩俣生産グループ狩俣吉宏氏、根間 靖氏



ネトロンネット布団カゴ養殖



網袋方式



ネットから芽出ししている状態



石にゴムバンドで結策し根付いた状態の
キリンサイ



平成22年11月に結策したキリンサイ
平均23cmに成長